



園だより

文京区立第一幼稚園
令和元年度 10 月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

体を動かすと楽しい！と感じる経験を

副園長 前田 宏子

暑かった夏もやっと過ぎ、吹く風に心地よさを感じられる季節になってきました。空の高さに秋を感じます。心地よい気候になると、力いっぱい走ったり、跳んだり、体を動かすことが気持ちよくなります。

秋といえばスポーツの秋。しかし、スポーツが苦手な私はこの時期が嫌いでした。「また、運動会だ、かけっこがあるなあ…」とため息を何度もついていたことを思い出します。大人になって、登山をしたりスイミングに通ったりする中で、「体を動かすのは楽しいことなんだ！」と気付くこととなりました。もっと早く「楽しい」と思えることに出会えたらよかったのに…と思いました。だからこそ、幼稚園の生活の中で「体を動かすことが楽しい！」と思える経験をしてほしいと思います。

幼児期に体を動かすことは大切です。6歳までには運動神経、感覚神経、脳や脊髄などの神経系が大人並みに成長するそうです。体を動かして刺激を脳に送ることで脳は成長していきます。特定の運動を繰り返すより様々な動きをすることに重点をおいたほうがよく、そのためにはいろいろな遊びをすることが大切です。鬼遊びでもボール遊びでも、電車ごっこのような友達を乗せて台車を動かすごっこ遊びでも、体を使った遊びならば何でも大丈夫。そして、「自分で考えたこと」や「頑張ったこと」を認めていくと子供は繰り返し楽しみ、より体を動かしたいと感じます。「やってみたい」「面白そう」という気持ちを持ち、簡単なことでも「できた」という有能感をもつことで、「また、やってみよう」という意欲が育ちます。

運動会への取り組みでは子供が自分からやりたくなる環境を作っています。年少組は川を泳いだり、橋を渡ったりするイメージをもち、スズランテープの川をくぐったり一本橋を渡ったりすることを遊びの中で繰り返し楽しんでいます。年中組の玉入れは、バイキンマンを狙って当てる、魚にご飯をあげるなどのイメージをもって楽しんでいます。子供たちは「見て、バイキンマンに当たったよ」「魚の口に入ったよ」とうれしそうです。年長組は綱とりやリレーに繰り返し取り組み、勝ったり負けたりする中で「どうやったら勝てるか」と話し合い、次の日にまたチャレンジをしようとする気持ちが出てきています。教師は子供の思いやアイデアを受け止め、次の日につながるようにしています。子供が「やった！楽しい」と感じる経験を積み重ねています。

今年の運動会は「みんなのワクワク運動会 げんきいっぱい エイエイオー」というスローガンを作りました。どの子もワクワクできる運動会になるようにしていきたいと思います。保護者の皆様もワクワクしながら参加していただき、子供たちのありのままを受け止めて、勝っても負けても温かな声援をお願いします。「運動会は楽しかった！」「頑張った！」と有能感を感じ、自信をもつことで、子供たちは意欲をもって園生活を楽しんでいくことと思います。